

2018年9月10日

平成30年度 認知症介護研究・研修東京センター
研究成果報告会 認知症ケアセミナー（当日資料）

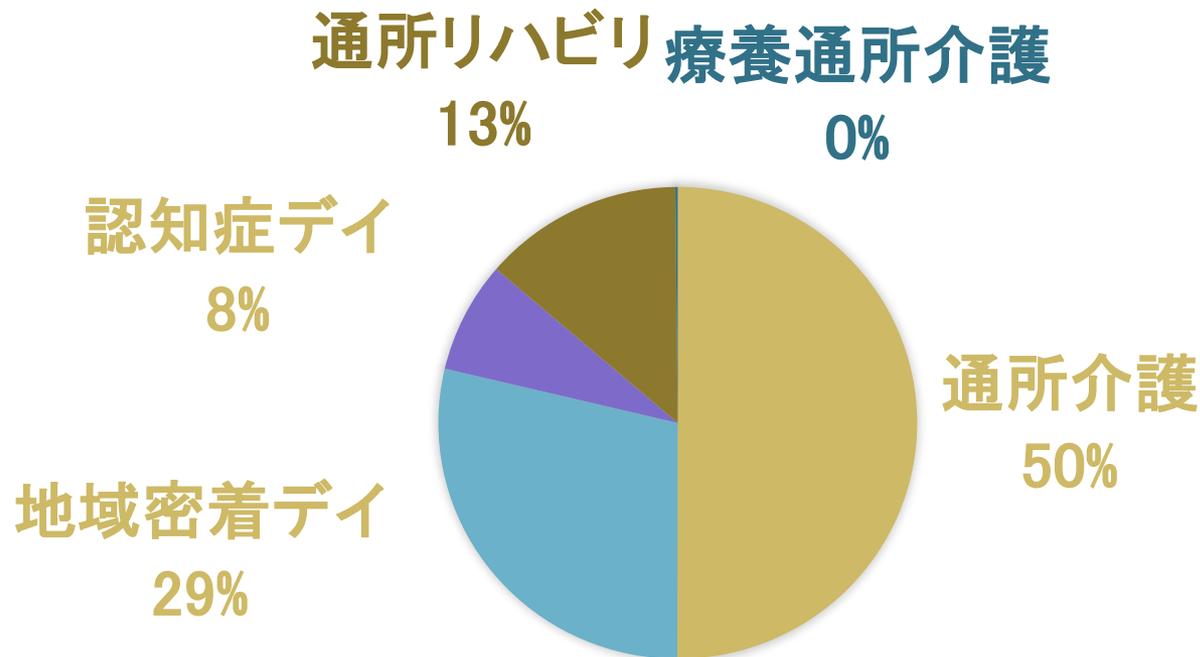
「認知症デイ」の強みを地域で 発揮するために

平成29年度厚生労働省老人保健健康増進等事業「認知症対応型通所介護事業所の
適正な整備及び専門的な認知症ケアに関する調査研究」報告概要

認知症介護研究・研修東京センター
小谷 恵子

通所サービスの全国割合

(平成29年4月19日ワムネット検索)

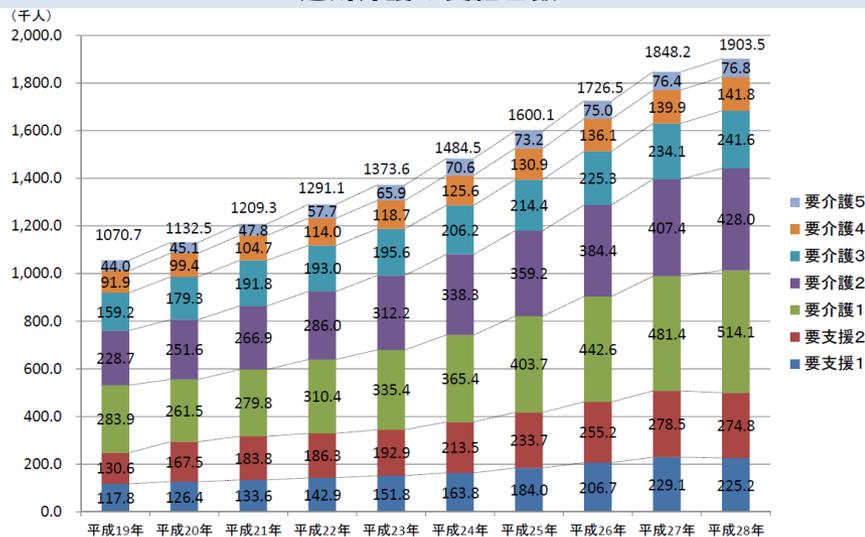


➤ 認知症デイの都道府県別の設置割合
4%～14% 全国平均 8% (参考: 福井県14% 東京都10%)

認知症デイの受給者は減っている

社保審一介護給付費分科会第137回(H29.4.26)資料2より

通所介護の受給者数

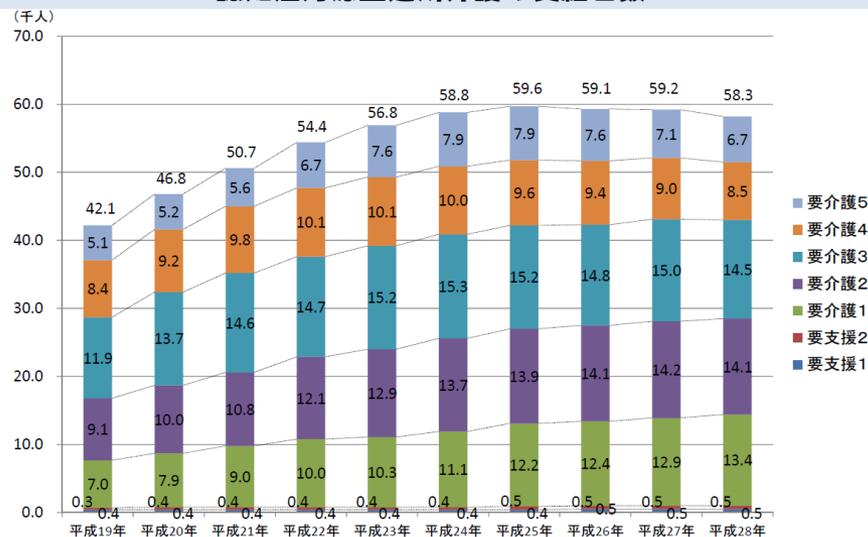


※総数には、月の途中で要介護から要支援(又は要支援から要介護)に変更となった者を含む。
※経過的要介護は含まない。

出典:厚生労働省「介護給付費実態調査」(各年4月審査分)

40

認知症対応型通所介護の受給者数



※総数には、月の途中で要介護から要支援(又は要支援から要介護)に変更となった者を含む。
※経過的要介護は含まない。

出典:厚生労働省「介護給付費実態調査」(各年4月審査分)

105

認知症デイは、平成25年までは増加傾向であったが以後横ばい、平成28年には減少

要介護3以上利用者 通所介護24% 認知症デイ51%
認知症デイは重度者が多い

認知症デイと地域密着デイ制度上の比較

	認知症デイ	地域密着デイ
利用者	要介護・要支援認定を受けた認知症の者	要介護・要支援認定を受けた者
サービス	日常生活上の世話、機能訓練	日常生活上の世話、機能訓練
定員(単独型)	単位ごとの利用定員12人以下	18人以下
スタッフ	管理者:常勤専従 生活相談員:専従で1人以上 看護職員(看護師または准看護師) 又は介護職員:専従で2人以上 (※生活相談員、看護職員又は介護職員(1人分)はサービス提供時間数に応じて配置 機能訓練指導員1人以上	管理者:常勤専従 生活相談員:専従で1人以上 看護職員(看護師又は准看護師) :専従で1人以上、それ以上は5人増すごとに1を加えた数以上) (※利用定員が10人以下の場合は看護職員又は介護職員が専従で1以上で可) (※生活相談員又は看護職員のうち1人以上は常勤) ※生活相談員、介護職員はサービス提供時間数に応じて配置 機能訓練指導員:1人以上
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; display: inline-block;"> 利用者数は6人少ないが、スタッフ数は+1 </div>		
単位数 (6時間以上7時間未満)	要介護1 871 要介護2 965 要介護3 1,057 要介護4 1,151 要介護5 1,245	要介護1 662 要介護2 782 要介護3 903 要介護4 1,023 要介護5 1,144

調査研究事業の目的

認知症対応型通所介護（以下、認知症デイ）と地域密着型通所介護（以下、地域密着デイ）のサービス内容の比較検証、介護支援専門員のサービス選択実態等について現状を分析し、課題と解決策を明らかにする ことにより、

利用者・家族や支援する介護支援専門員等の適切な選択に資するよう、認知症デイの役割を明確化し、今後のサービス提供のあり方等について提示する。

地域密着デイ

認知症デイ

各1,000箇所



実態について比較調査

- ・直接的支援内容（認知症ケアの実践）
- ・間接的支援の内容（認知症ケアにおける連携）

介護支援専門員へ調査 各1,000箇所

…事業所情報をどのように受取り、運用されているかの実態



- 認知症デイの利用が有効と思われる利用者像を導き出す
- ニーズに応えるための認知症デイの機能と利用を促進させる方法（つなぐ方法）を構築する

郵送による質問紙調査を実施

➤ 通所事業所調査

事業所の基本情報・運営状況

利用者・職員について

契約の開始・終了について

認知症の人へのサービス実施状況

事業所として 認知症の人の家族支援

認知症の人と地域をつなぐ支援

郵送による質問紙調査を実施

➤ 介護支援専門員調査

回答者の経験年数やプラン件数

回答者の所属事業所について

通所介護サービスの選択情報

通所介護サービスを紹介する上で実感していること

- 調査時期

平成29年10月3日～10月31日
(11月24日まで延長)

- 倫理的配慮

無記名式の調査とした。本調査のデータは統計的に処理を行い、調査目的以外に使用することがないこと、報告書では、回答いただいた個人、事業所が特定できないようにすること。その他、当センター倫理審査規定に則り適切に取扱うことを調査説明書に明示して実施した。

調査結果

- 回収率

- 1361部が回収

- 全体的な回収率は45.4%であった。

事業休止や事業廃止、実績のないもの、不明回答により無効となった票を除いた結果、下記について集計分析の対象とした。

認知症デイ 353部

地域密着デイ 387部

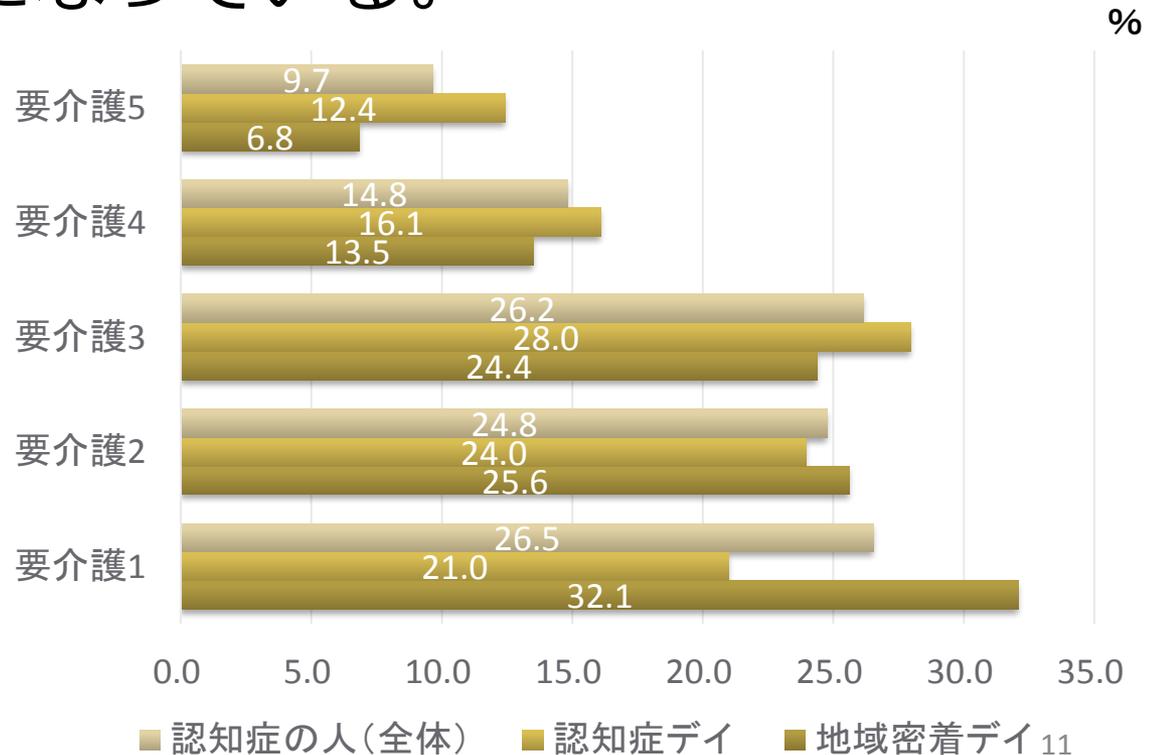
介護支援専門員473部

1. 認知症デイ利用者の特徴

- 認知症デイは地域密着デイに比較し、重度の認知症の人や、他事業の利用ができなかった利用者を受け入れるなどのケアが難しい認知症の人の地域の受け皿になっている。

(要介護度)
認知症のある要介護3
以上の人の割合

認知症デイ56.5%
地域密着デイ44.7%



認知症高齢者日常生活自立度

Ⅱ a 以上
 認知症デイ87.5%
 地域密着デイ68.5%

- ①認知症高齢者日常生活自立度Ⅰ
- ②認知症高齢者日常生活自立度Ⅱa
- ③認知症高齢者日常生活自立度Ⅱb
- ④認知症高齢者日常生活自立度Ⅲa
- ⑤認知症高齢者日常生活自立度Ⅲb
- ⑥認知症高齢者日常生活自立度Ⅳ



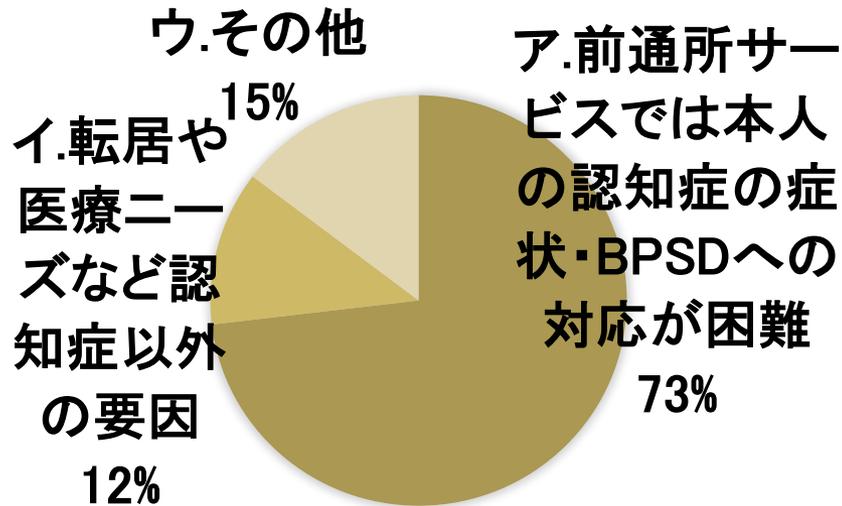
(原因疾患別の人数)

全体としてアルツハイマー型と診断されている利用者が6割
 原因疾患不明の認知症 地域密着デイ17.8%
 認知症デイ13.4%

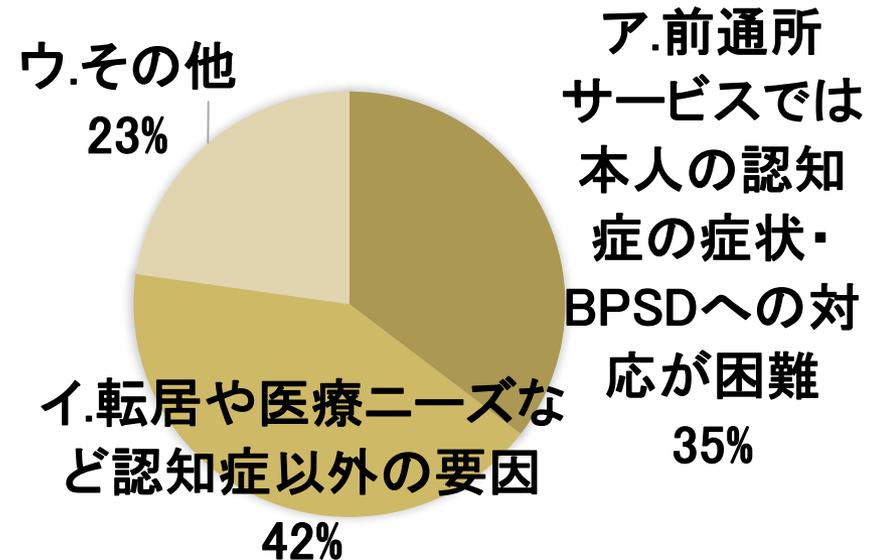
(直近6ヶ月の新規利用者が他通所サービスから転入であった)
 認知症デイでは39%、地域密着デイでは31%

(転入の場合、主な理由)

認知症デイ



地域密着デイ



(新規利用時、BPSDがあった人)

認知症デイ3.66人、地域密着デイ2.17人

2. 認知症デイのサービスの特徴

- 平均稼働率 認知症デイ62.2% 地域密着デイ68.4%
- 特徴的なサービス
 - 認知機能にあわせたアクティビティの提供
 - 家族支援への取組
 - 他事業所への情報提供
- 単独型は、併設型、共用型との比較において自己評価が高い
- 利用受入れを断ったことが無い事業所は自己評価が高い
気分によって過ごす場所を選択できる環境整備を行っている

- 認知症が軽度の段階から特に力を入れて実施しているサービス内容

6. サービス担当者会議の検討結果を事業所内で共有

8. 認知機能に対応したアクティビティの提供

10. 役割をもって取組めるアクティビティの提供

認知症の人へのサービスの実施状況（3実施できている～0実施できていない）

デイ調査票より

	実施内容		
1	生活歴に関する情報収集	3	2 1 0
2	生活状況に関する情報収集	3	2 1 0
3	利用者の心身状況に関する情報収集	3	2 1 0
4	デイでの過ごし方に関する事業所内での情報共有	3	2 1 0
5	デイでの日々の変化に関する事業所内での情報共有	3	2 1 0
6	サービス担当者会議の検討結果を事業所内で共有	3	2 1 0
7	心身機能に対応したアクティビティの提供	3	2 1 0
8	認知機能に対応したアクティビティの提供	3	2 1 0
9	個人の意向に対応したアクティビティの提供	3	2 1 0
10	役割をもって取組めるアクティビティの提供	3	2 1 0
11	個人の生活の仕方にそった ADL 維持改善の取組	3	2 1 0
12	個人の生活の仕方にそった IADL 維持改善の取組	3	2 1 0
13	空間がわかりやすい環境の整備	3	2 1 0
14	時間がわかりやすい環境の整備	3	2 1 0
15	事故を防ぎ、安全を確保できるような環境の整備	3	2 1 0
16	気分によって過ごす場所を選択できる環境の整備	3	2 1 0
17	体調によって過ごす場所を選択できる環境の整備	3	2 1 0
18	プライバシーが確保できる環境の整備	3	2 1 0
19	利用者のコミュニケーション能力の把握	3	2 1 0
20	安心できる言葉かけ	3	2 1 0
21	意欲を引き出せる言葉かけ	3	2 1 0
22	利用者間のコミュニケーションの機会をつくる	3	2 1 0
23	利用者間のトラブルを防ぐ対応	3	2 1 0
24	個人のケアに関する介護支援専門員への情報提供	3	2 1 0
25	個人のケアに関する他事業所への情報提供	3	2 1 0
26	介護支援専門員から認知症ケアについて相談を受ける	3	2 1 0
27	他事業所から認知症ケアについて相談を受ける	3	2 1 0
28	家族にデイでの様子を伝える	3	2 1 0
29	家族のニーズに関する情報収集	3	2 1 0
30	利用者に合わせた送迎方法の工夫	3	2 1 0
31	在宅生活維持に関する事業所内での検討	3	2 1 0
32	家族の認知症の人に対する受容につながる働きかけ	3	2 1 0
33	家族へ認知症の症状への対応方法を助言	3	2 1 0

認知症の人へのサービス実施の印象（3実施できている～0実施できていない）

実施内容

介護支援専門員調査票より

1	生活歴に関する情報収集	3	2	1	0
2	生活状況に関する情報収集	3	2	1	0
3	心身状況に関する情報収集	3	2	1	0
4	心身機能に対応したアクティビティの提供	3	2	1	0
5	認知機能に対応したアクティビティの提供	3	2	1	0
6	個人の意向に対応したアクティビティの提供	3	2	1	0
7	役割をもって取組めるアクティビティの提供	3	2	1	0
8	個人の生活の仕方にそった ADL の維持改善の取組	3	2	1	0
9	個人の生活の仕方にそった IADL の維持改善の取組	3	2	1	0
10	空間がわかりやすい環境の整備	3	2	1	0
11	時間がわかりやすい環境の整備	3	2	1	0
12	事故を防ぎ、安全を確保できるような環境の整備	3	2	1	0
13	気分によって過ごす場所を選択できる環境の整備	3	2	1	0
14	体調によって過ごす場所を選択できる環境の整備	3	2	1	0
15	プライバシーが確保できる環境の整備	3	2	1	0

16	コミュニケーション能力の把握	3	2	1	0
17	安心できる言葉かけ	3	2	1	0
18	意欲を引き出せる言葉かけ	3	2	1	0
19	利用者間のコミュニケーションの機会をつくる	3	2	1	0
20	利用者間のトラブルを防ぐ対応	3	2	1	0
21	個人のケアに関する介護支援専門員への情報提供	3	2	1	0
22	個人のケアに関する他事業所への情報提供	3	2	1	0
23	介護支援専門員から認知症ケアについて相談を受ける	3	2	1	0

実施内容

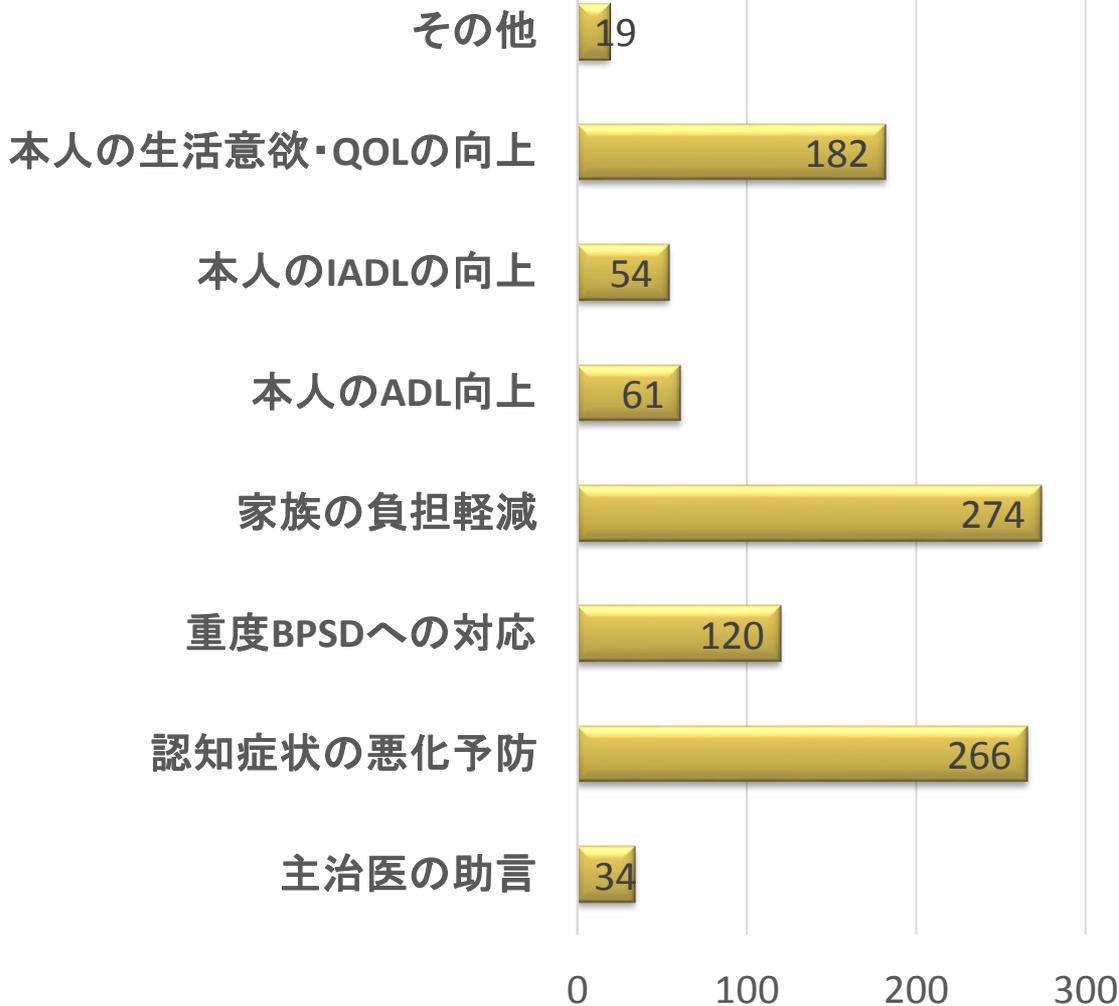
24	他事業所から認知症ケアについて相談を受ける	3	2	1	0
25	利用者家族に事業所での様子を伝える	3	2	1	0
26	利用者家族のニーズに関する情報収集	3	2	1	0
27	個人の状況に応じた送迎方法の工夫	3	2	1	0
28	在宅生活維持について事業所内で検討	3	2	1	0
29	家族の認知症の人に対する受容につながる働きかけ	3	2	1	0
30	家族へ認知症の症状への対応方法を助言	3	2	1	0

3. 介護支援専門員の認知症デイに関する認識

- 認知症デイの特徴的なサービスと介護支援専門員が期待する認知症デイの機能には大きな違いがない
- サービス実施状況の全項目において、介護支援専門員の印象は認知症デイの自己評価を下回っている
 - 介護支援専門員の期待する水準に認知症デイのサービスの質が達していない場合がある。あるいは、提供されているサービスの質に関する介護支援専門員の認識が不足しているといったことが考えられる
- 家族も含め地域住民の認知症デイへの理解や専門的ケアの実態が行き届いていない

(介護支援専門員が認知症デイを紹介したいと考えた目的)

(n=1010。複数回答有)

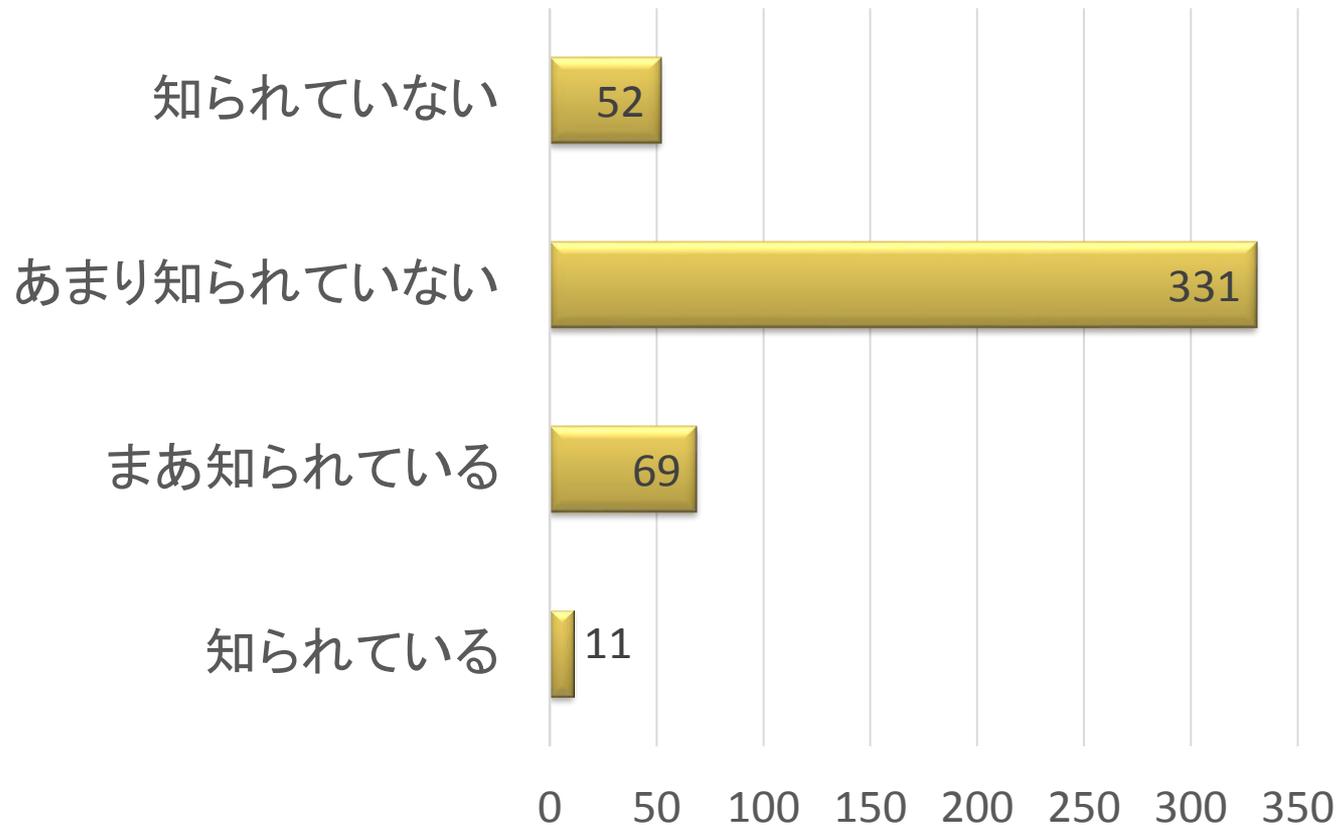


「その他」(自由記述)

- 専門的ケア内容への期待
 - ・ 認知症の方は認知デイの方が的確なサービスを行ってもらえる
 - ・ 若年認知症の対応に長けている
 - ・ 本人のADL、IADLの維持
 - ・ 本人が安心して過ごせる場所
 - ・ 意欲低下が顕著であり個別的な関わりが必要
- 認知症があり一般デイに馴染めない
 - ・ 他利用者とトラブル
 - ・ 個別ケアが行き届かない
- 家族支援への期待
 - ・ 家族の対応への助言
 - ・ 家族の負担、心配の軽減
- 職員数が多い
- 意見書を参考にした
- 包括からの助言

(認知症デイの役割・機能は、どの程度、地域住民に知られているか)

(n=473。単位は人)



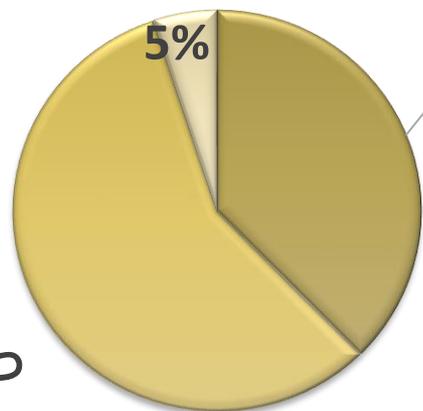
(認知症デイを紹介したいと考えたがケアプランに盛り込まなかったケース)

無回答

(n = 473)

あった
38%

な
か
っ
た
57%



ケアプランに盛り込まなかった理由

(n = 340。複数回答有)



「本人が希望しなかった」とした場合、その理由（自由記述）

68名の方に記載いただいた。（以下、代表的な内容）

- 外出自体を希望しない 13件
- デイ自体の利用を希望しない 12件
- 現状のデイを希望 10件
- 「認知症」と名前がつくことに抵抗がある 8件
- 認知症の自覚がなく受け入れることができない 8件
- 周囲の様子に不満があった 4件

「家族が希望しなかった」とした場合、その理由（自由記述）

75名の方に記載いただいた。（以下、代表的な内容）

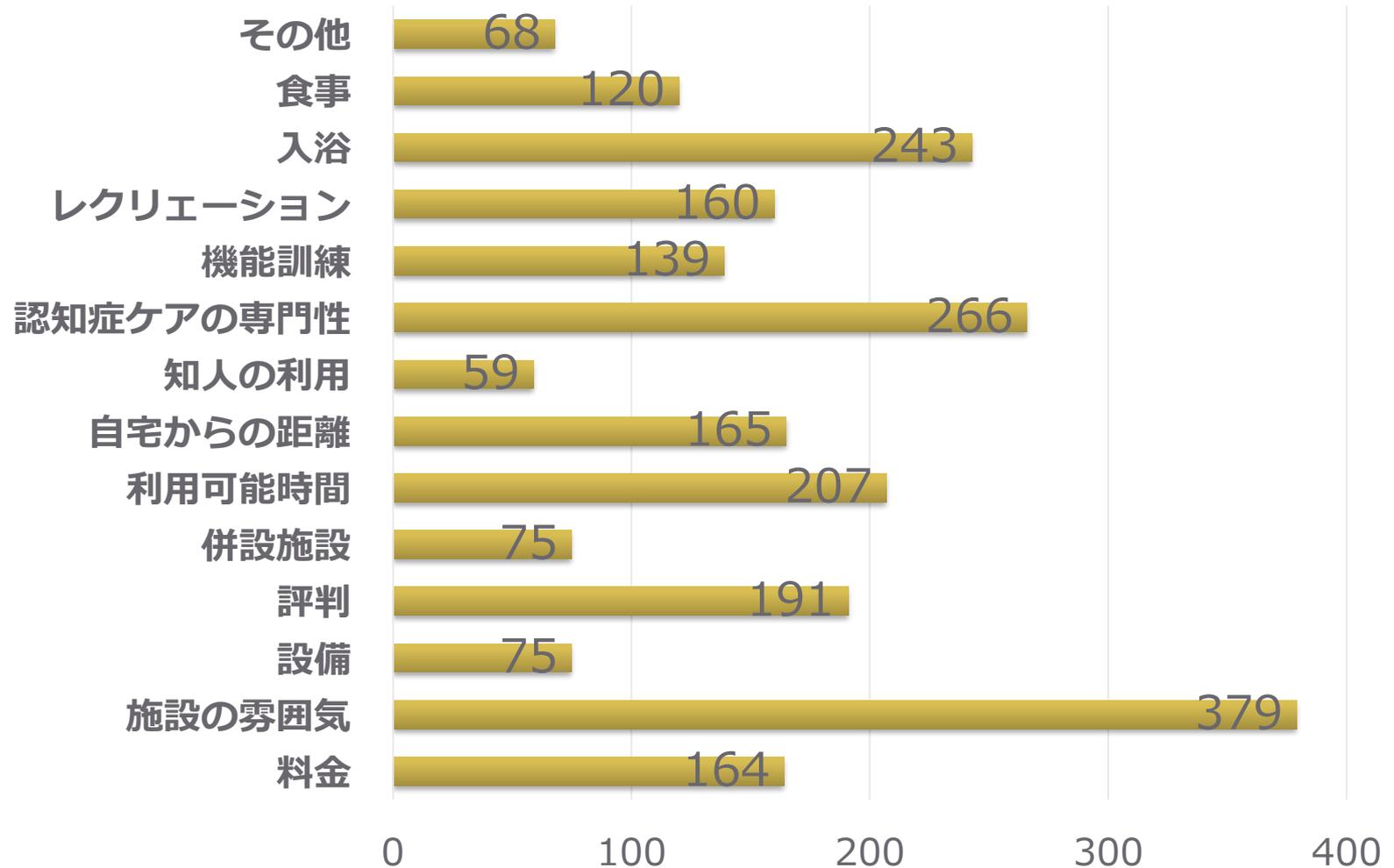
- 「認知症」と名前がつくことに抵抗がある 11件
- 認知症の人と過ごすことを望まない 10件
- 他デイと比較し選ばれなかった 7件
- 現状のデイを希望 6件
- 本人が希望しない 6件
- 金銭面 4件
- 単価が高く利用回数が減ってしまう 3件

4. 認知症デイに求められていること

- 認知症の人や家族が通所サービスを選択する場合の選択の要素は、「施設の雰囲気」「認知症ケアの専門性」「入浴」の順が多い
- 介護支援専門員が個々の認知症デイを選択する際に重視する点は、「信頼できる職員の有無」「提供しているサービスの内容」「十分な家族への支援の有無」「デイ利用時の様子連絡の有無」の順が多い
 - 提供しているサービス内容はもちろんのこと家族への細やかな対応を介護支援専門員と共有するといった経験の蓄積が介護支援専門員と事業所の信頼構築につながることを示唆される

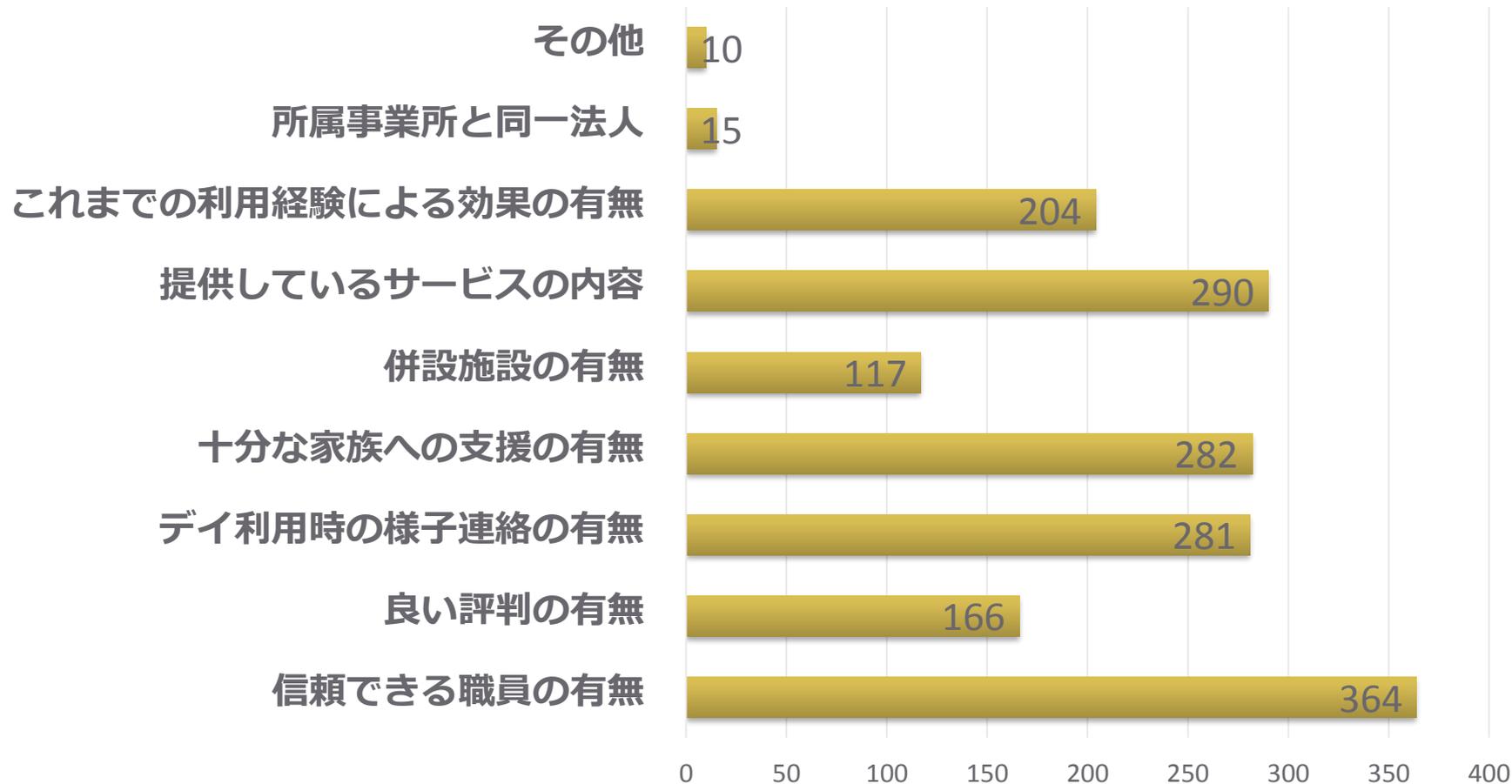
(認知症の人やその家族が通所サービスを選択する際の要素)

(n=2315。複数回答有)



(介護支援専門員が個々の認知症デイを選択する際に重視する点)

(n = 1755。複数回答有)



認知症デイの強みと課題

● 強み

- 要介護が高く自立度低く、BPSD等で他を断られた難しいケースにも対応
- 在宅生活の継続に重要な認知症ケアを実施している
 - 7.心身機能に対応したアクティビティの提供
 - 8.認知機能に対応したアクティビティの提供
 - 10.役割をもって取組めるアクティビティの提供
 - 27.他事業所から認知症ケアについて相談を受ける
 - 28.家族にデイでの様子を伝える
 - 29.家族のニーズに関する情報収集
 - 30.利用者に合わせた送迎方法の工夫
 - 32.家族の認知症の人に対する受容につながる働きかけ
 - 33.家族へ認知症の症状への対応方法を助言

- 介護支援専門員は、家族の負担軽減や認知症の悪化予防、本人の生活意欲、QOLの向上を目的に（期待）して認知症デイを紹介したいと考えている

- 認知症が軽度の段階から特に力を入れて実施していること
認知症デイでは・・・
 - 6. サービス担当者会議の検討結果を事業所内で共有
 - 8. 認知機能に対応したアクティビティの提供
 - 10. 役割をもって取組めるアクティビティの提供

地域密着デイでは・・・

- 22. 利用者間のコミュニケーションの機会をつくる
- 23. 利用者間のトラブルを防ぐ対応

● 課題

- 地域や専門職にあまり知られていない
- 認知症に対する偏見の解消と共に早期からの専門的なケアが必要であることを地域住民や専門職に十分発信できていない
- 認知症デイによる専門的ケア（均質なケア）が全国に安定的に提供されていない

認知症デイ研究会の開催

平成30年3月10日10:00～15:00場所 フクラシア丸の内オアゾ ホールB

【参加者】

検討委員・ワーキングメンバー10名、

拡大検討委員17名

(認知症介護指導 東京11名、仙台3名、大府3名)

事務局 4名

10:00～11:00	調査研究報告 認知症介護研究・研修東京センター
11:00～12:00	実践事例報告 認知症専門サービスOASIS 青木 智子氏 株式会社 Professional Works 島田 孝一氏
12:00～12:30	参加者自己紹介
12:30～13:30	休憩・交流
13:30～14:40	グループワーク ①認知症デイを普及のための方策 ②認知症介護指導者としてのアクション
14:40～15:00	全体共有

認知症デイ研究会の開催



認知症デイ普及のための議論

- 認知症デイ職員の力量の向上について
- ケアマネジャーや他事業所（専門職）の理解促進について
- 地域住民の理解促進について
- 稼働率が低い、経営の難しさ（経営モデル構築の必要性）について
- その他、普及と広報に関する意見 認知症デイ事業所連絡会の立ち上げ

● 全体討論

今後も以下のテーマ等について議論を重ね、認知症の人の在宅生活を支える認知症デイを普及させていきたいということが共有された。

- ・ 認知症デイの発信について（広報活動）
- ・ 事業所や地域で起きている課題解決に向けた検討
- ・ 利用までに時間を要す方へ関わり(利用者と信頼関係を作り、生活の再構築を行う取組)
- ・ 家族への支援
- ・ 認知症デイに求められていること(原点に戻って考えたい)

2018年度 認知症デイ研究 フォーラム 開催決定！

日時：9月29日（土）
11時～17時

場所：東京センター
大会議室

対象：認知症介護指導者
認知症デイに従事or
認知症デイの普及促進に
関心のある方

定員：50名

参加費：無料

内容：実践事例報告3例
+ ディスカッション

認知症デイの効果的な
ケアとその要因につい
て議論します！

第1回 認知症デイ研究フォーラム

「認知症の人の地域生活を支えるデイサービスに関する研究」
～認知症デイの普及に向けて～

認知症デイ=認知症対応型通所介護

開催日：2018年9月29日（土）

時間：11:00～17:00

場所：認知症介護研究・研修東京センター
2階 大会議室

(〒168-0071 東京都杉並区高井戸西1-12-1)

定員：50名

(対象：認知症デイ事業所に従事
もしくは認知症デイの普及促進に
関心のある認知症介護指導者)

参加費：無料

9月20日(木)までにメールまたはFAXでお申し込みください。

認知症デイの強みを地域で発揮するために、その効果を可視化しそれを可能にしている要因を
認知症介護指導者と検討し、発信したいと思います。3センター修了の認知症デイ仲間と出会い、
学び合いましょう。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

(今年度、2回シリーズです。第2回は2月15日(金)開催予定)

スケジュール

午前	平成29年度老健事業 調査研究報告 認知症介護研究・研修東京センター	小谷 恵子
	平成30年度インハウス研究 ワーキンググループ紹介 ランチタイム(自己紹介)	
午後	実践事例報告	
	●「一人暮らしの認知症の人への支援」 福島県認知症介護指導者	
	一般財団法人武田健康財団 認知症専門デイサービスOASIS	青木 智子 氏
	●「認知症デイだからこそできる認知症の人の初期支援の実践」 千葉県認知症介護指導者	
	有限会社ウェルフェア デイサービスセンター秋津	田邊 恒一 氏
	●「地域で共に在る」～拠点となるための取り組みとチームカ〜 大阪市認知症介護指導者	
	医療法人仁徳会 すこやかデイサービスセンター	森口 洋一 氏
	グループワーク・全体討論	
コメンテーター	武蔵野大学 人間科学部社会福祉学科 教授 (認知症介護研究・研修東京センター 客員研究員)	渡邊 浩文 氏
	認知症介護研究・研修東京センター 副センター長	佐藤 信人

デイサービスは地域における大きな財産です

いつでも見学歓迎します！

認知症デイのご案内

本人に合わせた環境を作り
残存機能を引き出していきます。

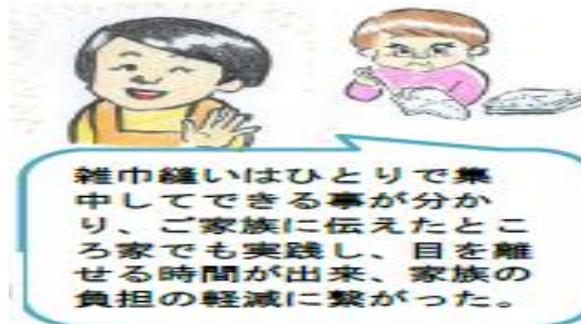
認知症対応型デイサービスとは

- ❖ 一日の定員が12名と少人数のため、その人のペースに合わせた1対1の対応ができます。
 - ❖ 認知症に対する専門知識を学んだスタッフが対応します。
 - ❖ 認知症デイでは本人のその時の状況に合わせて集団や個別を使い分けて関わっています。
- もう家ではムリ、施設入所しかない、となる前にご相談下さい
私たちにその人らしく生活していくお手伝いをさせて下さい！

このような支援をさせていただいています。



ぼけないために色々やってもらいたいが、家では目も手も足りない…。



会津認知症ケア連絡協議会

認知症があっても地域で前向きに生きていくことができる社会を目指して…